

STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

11.344 JULY 22 – 自分は、4交番の内の3交番目でSPSトリロバイト号からSPSフェインスティン号に転属することになった。副長であった第一階[redacted]級海軍少尉リムと別れるのはとても残念だ。リムは、本当の意味でのいい友人であった。困った時には気楽に相談に行けたし、尊敬もしていた。ときどき夜がふけるまでいろいろ話[redacted]し合った。リムはよく田舎のアシューダウン ファイブのことを聞かせてくれたし、自分は、生まれ育ったギャリウムの話をした。ギャリウムは宇宙の杜の故郷とはいえないにしても、妙に故郷が恋しくなることがあるものだ。今度の司令官も話せる人でありますように…リムの半分でもいいから。

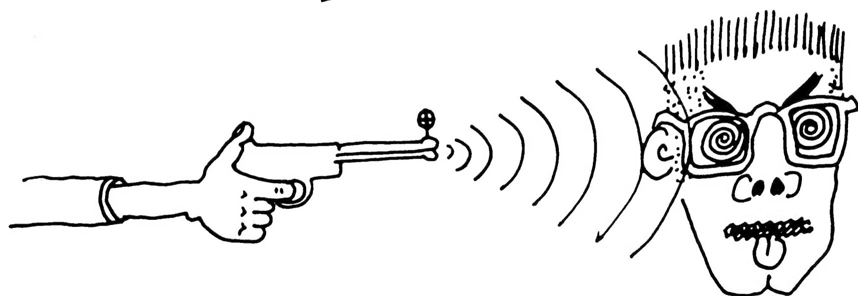
今度の船は、スバラシイ。仕官室には5人の少尉しか詰めていないし、ロッカーも1.5立方メートルほど確保できた!

11、344 JULY 23 – 今度の副長、第一階級海軍少尉ブラザーに会った。奴は本物の大タコだ!（宇宙通信禁止用語をお許しください、ママ）もしかしたら第一印象が悪すぎただけかもしれないが…。

11、344 JULY 25 – 仕官室の同僚・ゴルンドが第七階級少尉全員でのダブルファニクトーナメントを提案した。昼食後（150ーミニクロン・レクレーション時間帯）に[redacted]早速トーナメントを楽しんでいたが、突如として

乱入してきたブラザーに中止させられてしまった。戦争ゲームはパトロール隊規則に触れるため、ご法度というわけらしい。だがウィリップ少尉(パトロール隊気付けの弁護士になるために勉強している)に言わせると、規則のどこを取ってもそんなことは書いていないということだった。

ブラザーは本物の大タコだ!!!!



11、344 JULY 28ー 人事担当官のところへ出頭し、フェインステイン号での任務について聞きにいった。そこで見せてもらった任務リストの中から、グローチ飼育当番を選んだ。 クロサス滞在中に2、3頭積み込んだグローチをトリメインの動物園の実験室に運び込み、どうしてたった一日で体重が47倍にも増えるのかについて研究すると聞いている。

11、344 BOZBAR 7ー 人事担当官からコック長までの全員が、自分のグローチ飼育当番の申請を承認してくれた。それなのにブラザーのタコだけが反対しやがった。明日その件で奴と面談することにした。うまくいきますように…。



STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

11、344 BOZBAR 8－ タコ!! ブラザーが却下しやがった！ それどころか、「そんなにグローチが好きならグローチ艦の掃除係にまわしてやる。」ときたもんだ。まったくなんてこった！ バカ、アホ、大タコ！

11、344 BOZBAR 26－ ブラザーがテレラン鳥のように四六時中、監視しているので、ここのところ まったく日記をつける余裕がない。先週の抜き打ち検閲で日記が見つかってしまい、200点も減点されてしまった。ブラザーのタコ野郎は「日記は規則違反だ。」とぬかしやがった。このまま日記をやめると気が滅入ってしまいそうだ。そこで公文書のファイルの中に日記を閉じ込んだ上でエアダクトの中に隠すことにした。これからはどっかにこっそり隠れて日記をつけることにしよう。

11、344 BOZBAR 27－ ママ こんちは、今は、SPS フェインステイン号4番デッキの補給品戸棚の中。こんなふうに日記を持ち歩くことで、ツキに見放されることを願っているわけじゃないよ。僕もみんなのように自分の運命なんてまったく信じていなかったけど、それはもう過去のこと。昔、コンピューターが「パパの怪我の確率43%」と示してきた時、ママは「暗くなったら星の表面を歩き回らないで。」とパパに忠告したよね。でもパパは、いつものように強情で、忠告を笑い飛ばして、夜の散歩に

出てったもんだった。そして次の年の夏。夜散歩に出かけたパパは、クレーターに足をひっかけて膝をケガをしてしまったんだっけ……。少しは運命ってものを信じるようになったのはそれからさ。やれやれだぜ！

11、344 BOZBAR 28 ー 今日惑星軌道に入った。ここはアカルディー3(現地人はブロウク・ビビン・ゴードと呼んでいるらしい)という非人間世界だ。ここはまだ銀河連合には正式に加盟していない。連合参加を勧めるために、トレメインに連れていく特命大使を乗船させるというもっぱらの噂だ。明日は、歓迎式典があるため儀礼服着用令が出ている。

11、344 AUGUST 2 ー 昨日の歓迎式典の際、ブロウク・[redacted]ビビン・ゴードの大使をちらっと見た。木の幹と融け出したソフトクリームのコーンの合いの子みたいな格好をしていた。今日は、大使の歓迎セレモニーのおかげでグローチ艦の掃除をしないですんだ。

11、344 AUGUST 7 ー ゆうべは鑑賞を義務づけられている、パトロール隊インフォメーション、[redacted]トライビジョンの3本立て、「宇宙ライシ侵略に対する処理」、「上陸許可シェリー：異星人病予防法」、そして「空気タンク：真空状態での最良の友」を見にいった。2本目の上映中にやじをとばしたかどで、半分の少尉が仕官室で





STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION

禁足になった（残りの半分は、というと、1本目の途中ですでに寝ていたってワケさ）。

11、344 AUGUST 24 ― バカまるだしの大ダコ!!

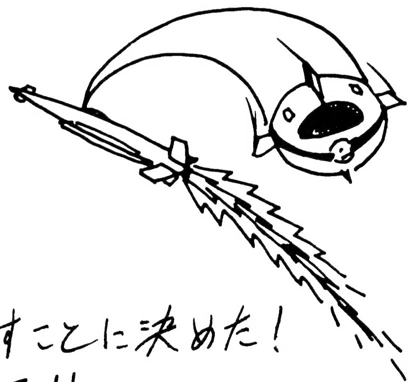
自分は次の4半期に宇宙物理学の訓練を申し込んだ。ところがブラザーが「特命任務作戦部隊での仕事っぷりがまだまだ不十分だ」と言いはり、申請を却下したばかりでなく、精神矯正と称して、ふき掃除当番を命じてきやがった。 タコブラザーが!!

さすがに自分は、パトロール隊員としてこの先うまくやっていけるかどうか、初めて不安になってきた。ガリウムで育った頃から、その年齢に達すれば、パトロール隊に入隊することを当然のことだと思っていた。家は、5世代も続くパトロール隊員一家だ。曾々おじいちゃんに至っては、海軍大尉でパトロール隊生みの親でもあった！ けど、どうやら曾々孫は、第七階級の少尉で一生を終わりそうだ…。ブラザーは意地悪のし放題だ。

11、344　SEPTEM　4 ー 当初の予定ではあと2週間停泊しているはずだったが、本日7、600にハイパースペースに向かって出発した。裏情報によると、現地の恒星システムを調査する特命を受けたらしい。ある考古学者によると、第二連合の生き残りかもしれないとのことである。大銀河の隅っこで定住しているなんて、どんな人たちだろう。

11、344　SEPTEM　5 ー またあのタコが！

昨日グローチの檻を掃除していた時に、ノロットのはいったペリットを2つ見過ごしてしまった。そうしたらブラザーが減点100を宣告し、本船の中で最も汚い9番デッキを含む、臨時デッキ清掃2回を課してきやがった。自分は転属願いを出すことに決めた！それでもダメならこの船から逃亡してやる!!





STELLAR PATROL OF THE THIRD GALACTIC UNION



STELLAR PATROL OF THE [illegible] GALACTIC UNION

